

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 管家 鉄平

審査担当者	主査	教授	丸藤	哲
	副査	教授	玉木	長良
	副査	教授	松居	喜郎
	副査	教授	筒井	裕之

学 位 論 文 題 名

冠動脈 CT により側副血行路を描出することの臨床的有用性についての研究
(Studies on the Clinical Utility of Visualization of Collateral Channel with Coronary Computed Tomography Angiography)

申請者は、Retrograde approach 法を用いて経皮的冠動脈形成術が施行された冠動脈慢性閉塞に供給されている側副血行路を冠動脈 CT で評価したところ、冠動脈 CT による側副血行路の描出能は、冠動脈造影検査 (CAG: coronary artery angiography) と比較すると正診率 74.5%と良好であり、冠動脈 CT で描出可能であった側副血行路は、guide wire 通過成功率が有意に高く、合併症の頻度が有意に低かったという結果が得られた。これらの結果により、申請者は冠動脈 CT にて側副血行路を評価することは臨床的に有用である可能性がある」と結論づけた。

審査にあたり、まず副査の筒井教授から、冠動脈 CT で評価する事の付加的価値についての質問があった。副査の玉木教授からは、冠動脈 CT と CAG との方法論や見え方の違いによる治療成績との関係についての質問があった。副査の松居教授からは、guide wire 通過に至るまでに要した時間や、側副血行路の部位における guide wire 通過成功率の違いについて質問があった。最後に主査の丸藤教授からは、今後前向きに検討した場合、冠動脈 CT で側副血行路を評価した結果が今後どのように治療戦略に影響するかということについて質問があった。いずれの質問に対しても申請者はその主旨をよく理解し、自らの研究内容と文献的考察を交えて適切に回答した。

本論文の一部は、国際英文誌 Journal of Cardiovascular Computed Tomography に既に原著論文として掲載され、今後のさらなる側副血行路の解明と冠動脈の治療戦略につながる事が期待される。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。